

公立大学法人秋田県立大学の業務の実績に関する評価結果の業務への反映状況一覧

○中期目標の期間（平成24～平成29年度）における業務実績に関する評価結果の反映状況

期間評価における指摘事項	評価項目	平成30年度の業務運営等への反映状況
<p>大学院学生の確保については、広報活動の強化や大学院優秀学生奨学金の給付などの取組により、大学院収容定員充足率の改善が図られているものの、数値目標が達成できていないことから、定員充足に向けた更なる取組が求められる。</p>	<p>I-1-(1)</p>	<p>○ 学生の進路選択の時期を考慮し、本学大学院出身者で企業の第一線で活躍している修了生を招いて学部3年生を対象に実施している大学院説明会の開催時期を早めた。加えて、学部入学時点から大学院進学を目指す学生の増加に向けて、高校生向けの進学説明会などでも本学大学院の魅力を発信することとし、平成31年度計画に位置付けた。</p> <p>○ 教員が、本学大学院修了者の就職先企業や企業において求められる大学院修了レベルの知識、技術や待遇面の違いなどについて研究室の学生やその保護者に説明するなど、個別に大学院進学の特長をPRした結果、機械知能システム学専攻（システム科学技術研究科）においては、過去5年間の平均入学定員充足率が160パーセント程度で推移するなど効果が表れてきており、今後はこうした取組を他専攻においても積極的に進めていく。</p> <p>○ 大学院優秀学生奨学金制度では、30年度入学者29名（年間授業料相当額給付対象者12名、年間授業料相当額の半額給付対象者17名）を新たに認定し、前年度認定者（博士前期課程2年生）35名と合わせた計64名に対して計29,736千円を給付し、経済面での支援を行った。</p> <p>○ 既存のパンフレット「大学院進学の手引き」に加え、大学院進学促進用のパンフレット「VISION(大学院)」を作成し、大学院での研究テーマや長期履修学生制度など社会人向けのPRを強化した。また、入学前に優れた業績を有する社会人を対象として新たに短期履修制度を創設した。</p>

○平成29年度の業務の実績に関する評価結果の反映状況

平成29年度評価における指摘事項	評価項目	平成30年度の業務運営等への反映状況
<p>大学院学生の確保については、広報活動の強化など種々の取組が行われていることは評価されるが、収容定員充足の数値目標を達成しておらず、引き続き目標達成に向けた取組が求められる。</p>	<p>I-1-(1)</p>	<p>○ 学生の進路選択の時期を考慮し、本学大学院出身者で企業の第一線で活躍している修了生を招いて学部3年生を対象に実施している大学院説明会の開催時期を早めた。加えて、学部入学時点から大学院進学を目指す学生の増加に向けて、高校生向けの進学説明会などでも本学大学院の魅力を発信することとし、平成31年度計画に位置付けた。</p> <p>○ 大学院優秀学生奨学金制度では、30年度入学者29名（年間授業料相当額給付対象者12名、年間授業料相当額の半額給付対象者17名）を新たに認定し、前年度認定者（博士前期課程2年生）35名と合わせた計64名に対して計29,736千円を給付し、経済面での支援を行った。</p> <p>○ 既存のパンフレット「大学院進学の手引き」に加え、大学院進学促進用のパンフレット「VISION(大学院)」を作成し、大学院での研究テーマや長期履修学生制度など社会人向けのPRを強化した。また、入学前に優れた業績を有する社会人を対象として新たに短期履修制度を創設した。</p>
<p>外部資金の獲得件数については前年度を上回っているものの、総額で前年度を下回っており、引き続き自己財源の確保に向けた取組が求められる。</p>	<p>V-2-(1)</p>	<p>○ 科研費助成事業への応募・申請方法に関して、新たに審査区分の選択や申請書作成上のノウハウに焦点を当てた外部講師による科研費説明会兼申請書セミナーを開催した。また、科研費制度、事務手続きの年間スケジュール、研究費執行の注意点等を説明する科研費新規採択者向けセミナーの開催のほか、本学名誉教授等が「科研費申請アドバイス事業」として14名の教員に応募申請支援を実施するなど、教員の科研費の獲得を支援した。</p> <p>○ 外部研究資金獲得のための呼び水として、科研費チャレンジ研究、創造的研究、新任教員スタートアップ支援研究などの学内研究支援制度により計61テーマを採択した。また、大型の外部研究資金の獲得を目指す組織横断的な研究等を推進するため、繰越積立金を活用した「学長特別研究プロジェクト」を30年8月に新たに設け、2テーマを採択した。</p>